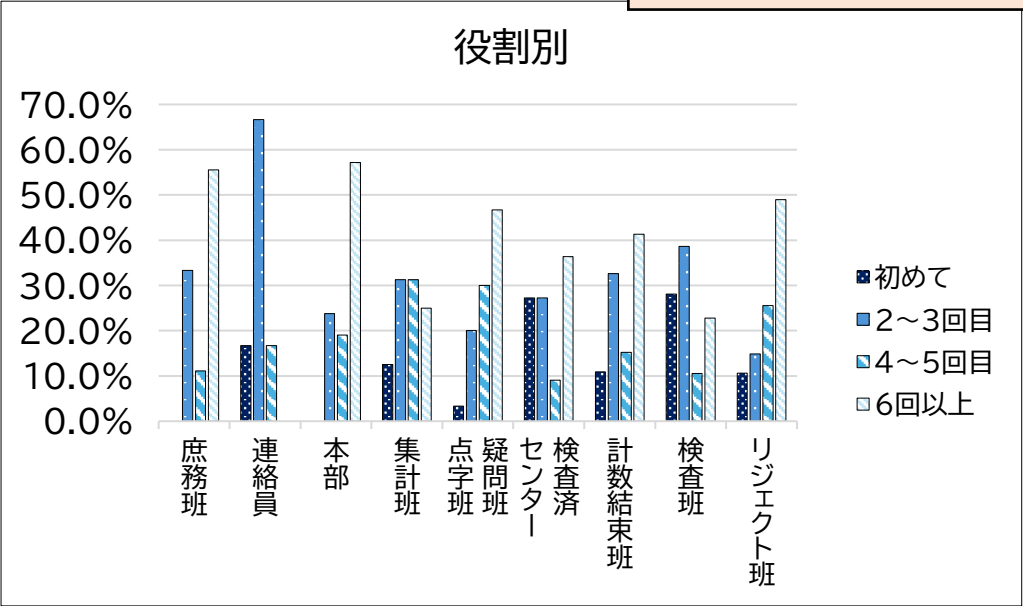
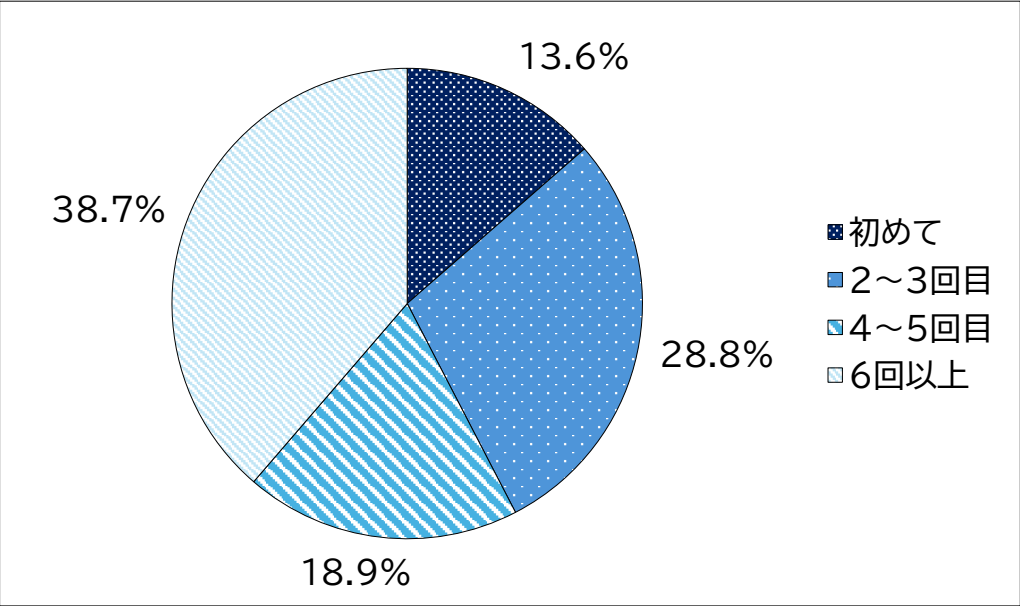


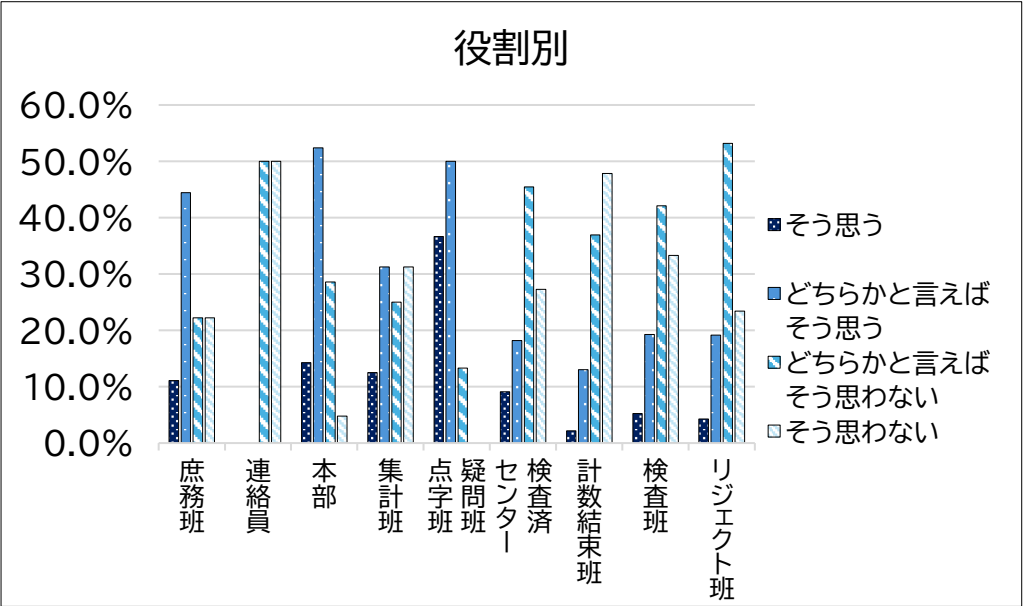
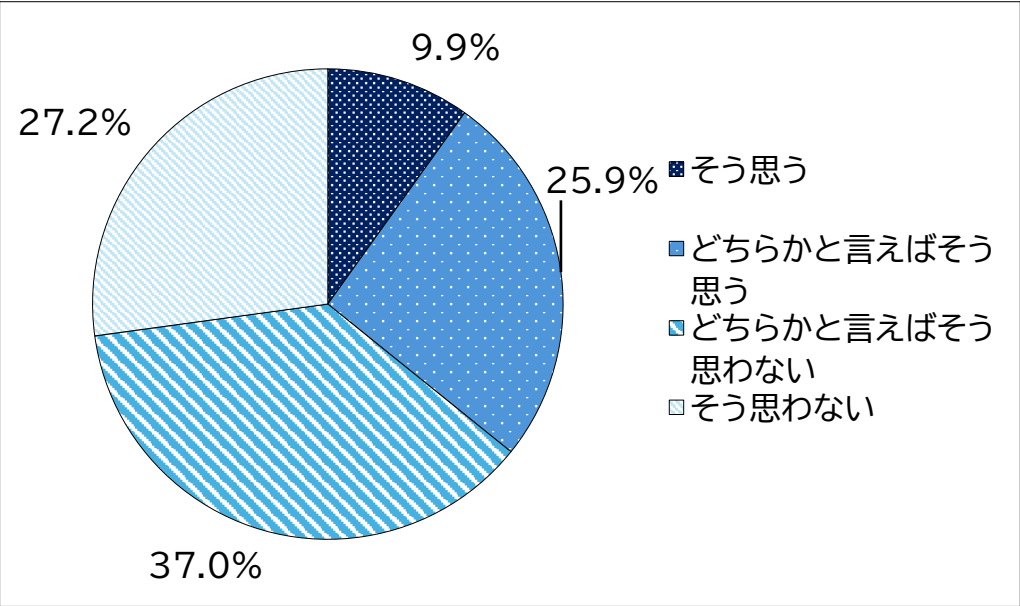
# 開票事務従事者アンケートまとめ

Q 1 : 開票事務の経験回数を選択してください。

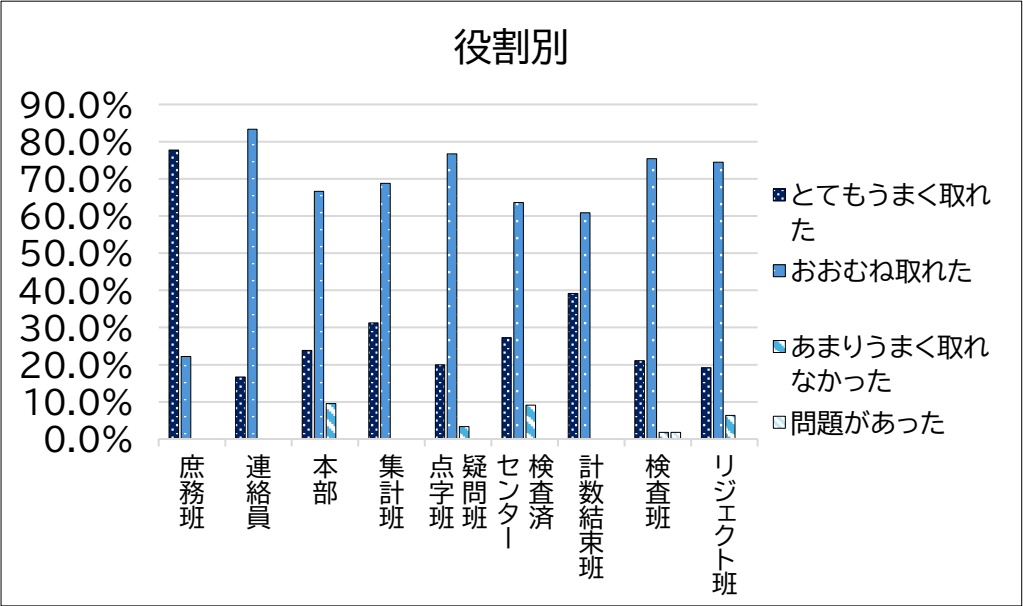
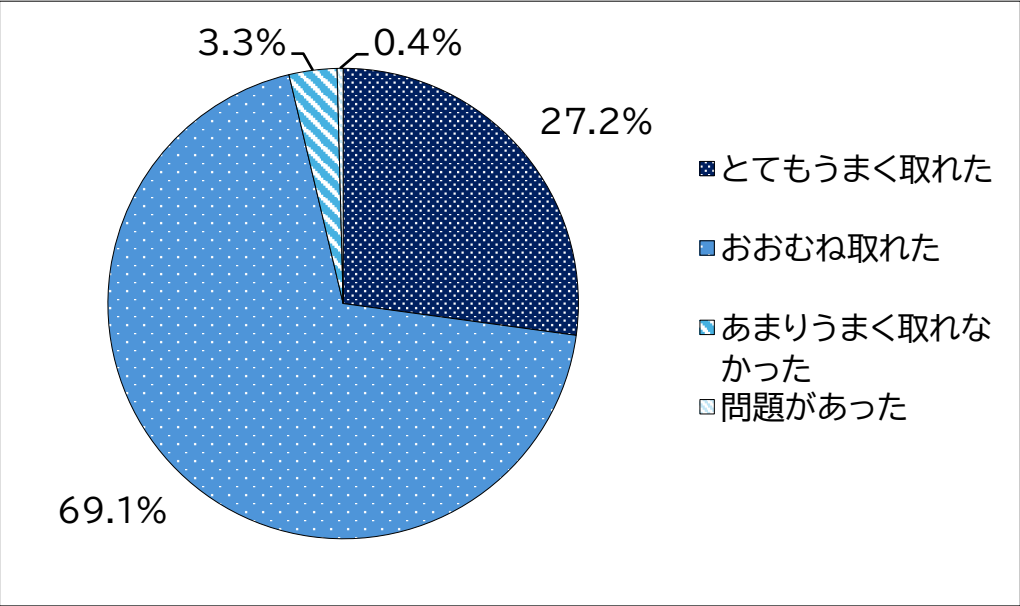
回答率：78.1%



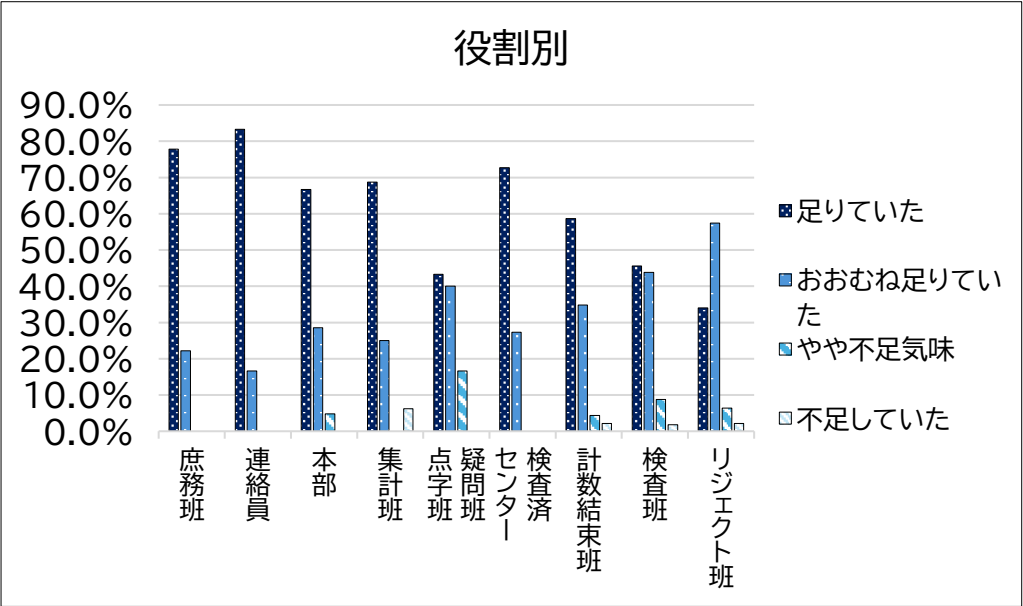
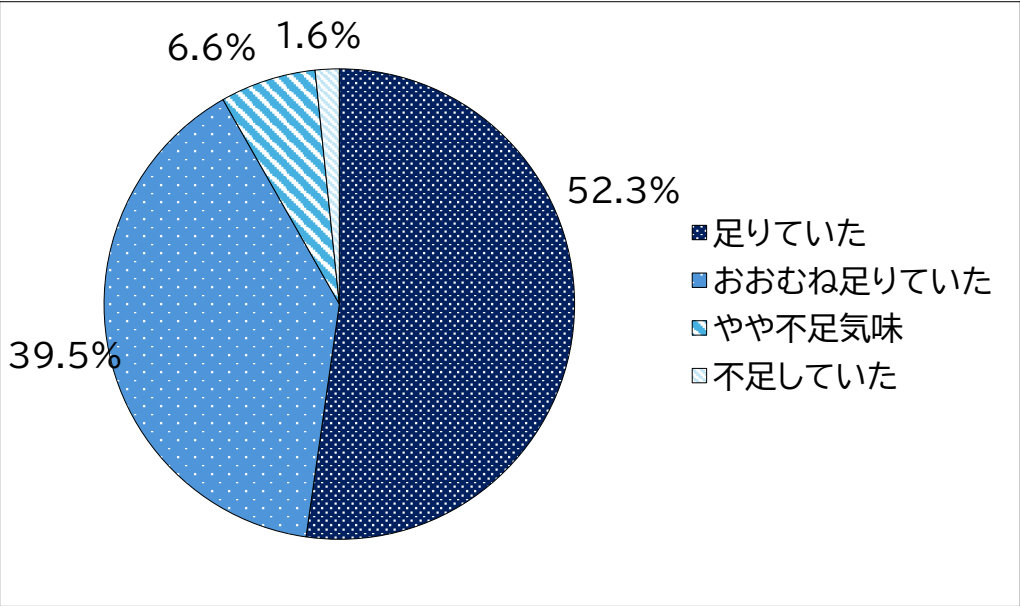
Q 2 : 担当した業務は知識や経験がなければ難しいと感じましたか？



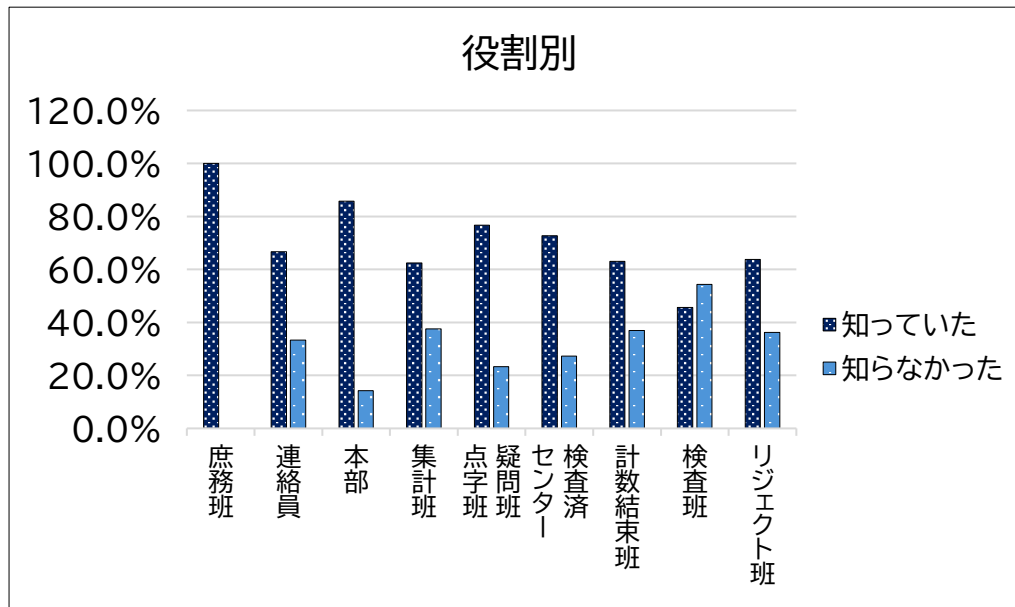
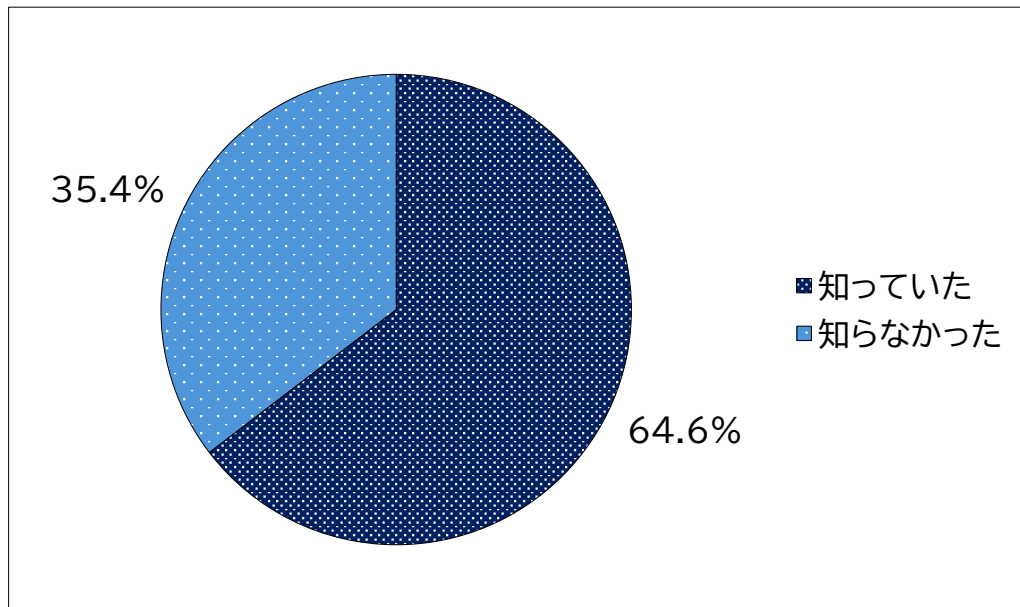
Q 3 : 班内でのコミュニケーションはうまく取れていましたか？



Q 4 : あなたが行った業務の人員は足りていましたか？



## Q5：トラブルが発生した際の相談先・連絡先は把握していましたか？



## Q6：「相談先・連絡先」について、詳細を記入してください。（まとめ）

### ① 基本ルート：「まず班長」→その先へエスカレーション

班員の多くは「何かあったらまず班長に相談・報告」という認識で統一されている。

班長でも判断がつかない場合に、統括(管理職)、本部、選挙管理委員会事務局職員へつなぐ、という二段階ルートが基本。

### ② 事案別の主な相談先イメージ

・票の内容・有効無効・疑問票関係

まず班長へ報告 → 解決しなければ、巡回している選管職員、本部(開票本部)に相談。

・計数機・分類機など機械の不具合

まず班長へ報告 → 機械メーカー担当者、会場の本部・庶務班に連絡し対応してもらう。

・開票システム・集計数字のトラブル

集計班・本部ともに選挙管理委員会事務局職員(開票担当係長など)、庶務班に報告・相談する流れ。

・庶務・物品不足など運営面の問題

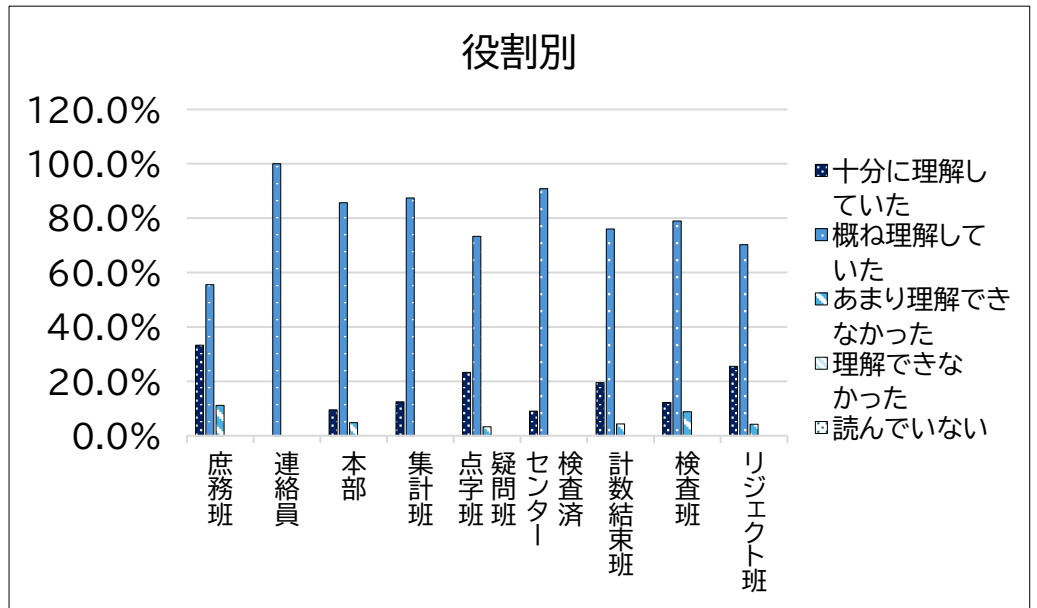
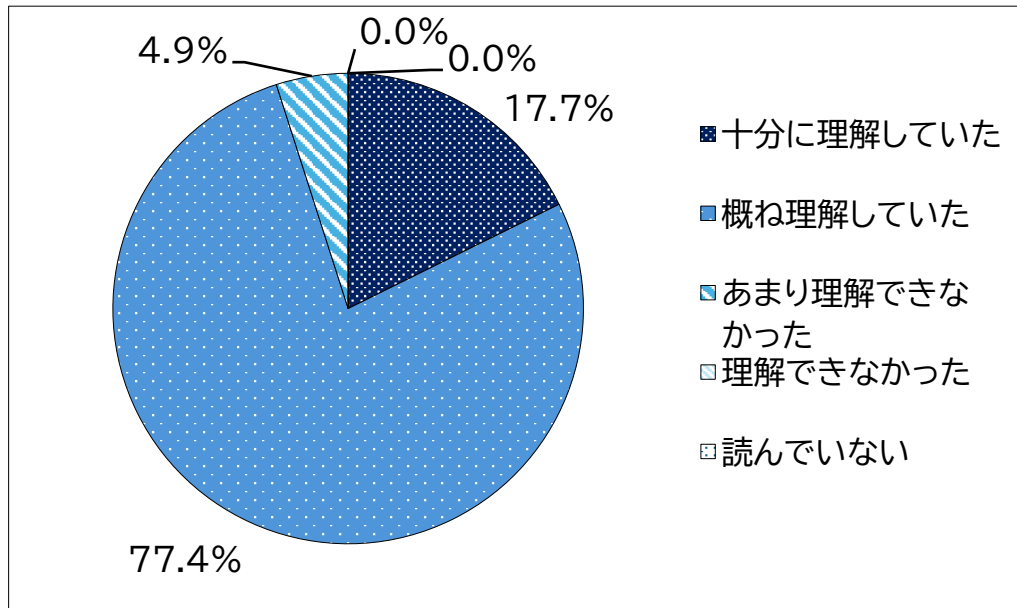
庶務班・庶務係長・連絡員への相談。

### ③ 連絡手段の定着

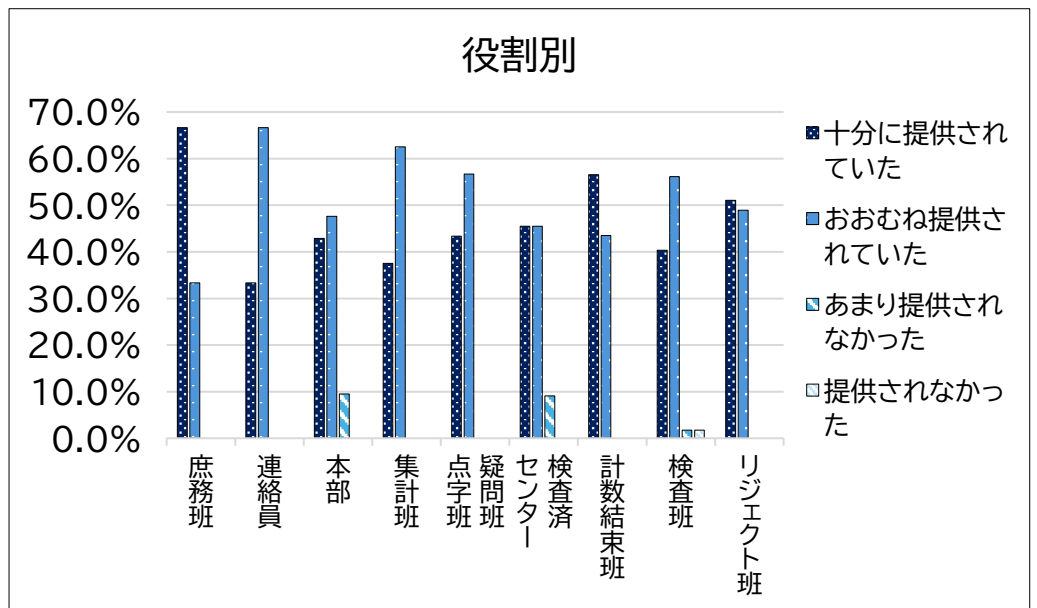
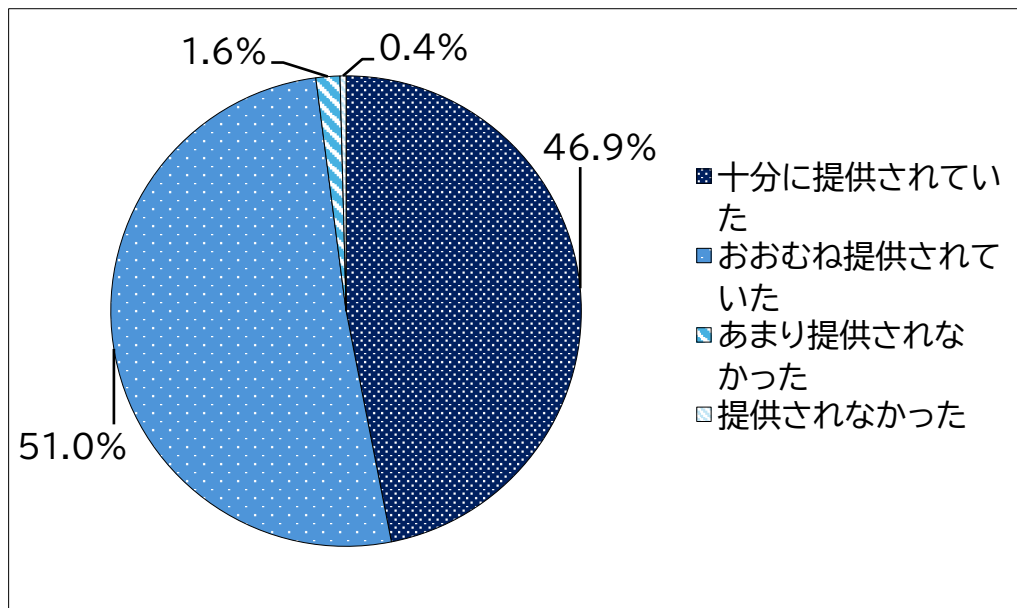
本部班や庶務班は、「不明点は選管職員」という意識が共有されている。

インカムやランシーバーを通じて「場所＋状況」を本部の選管職員へ伝え、対応してもらう運用も定着。

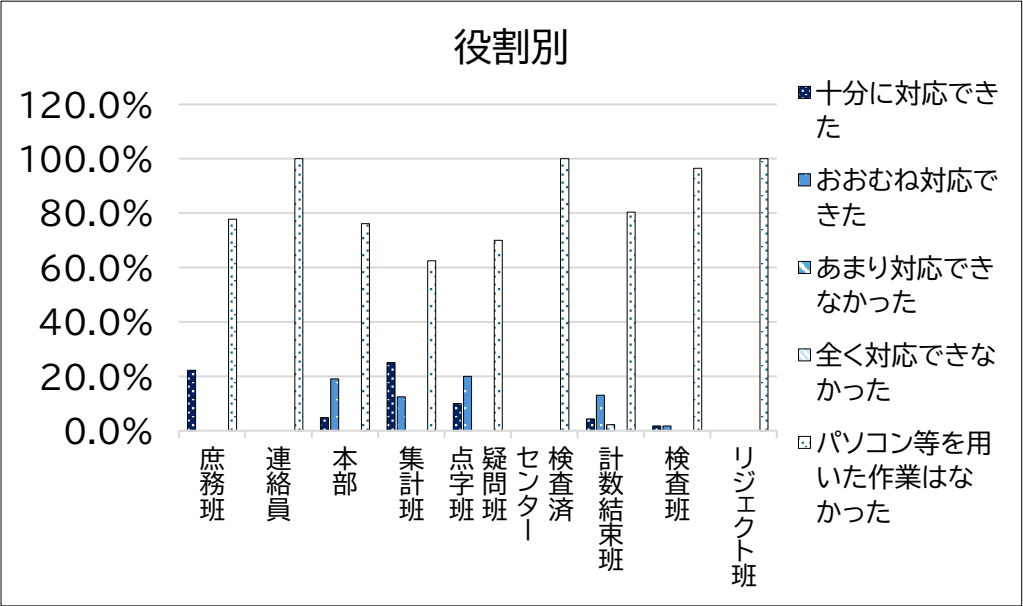
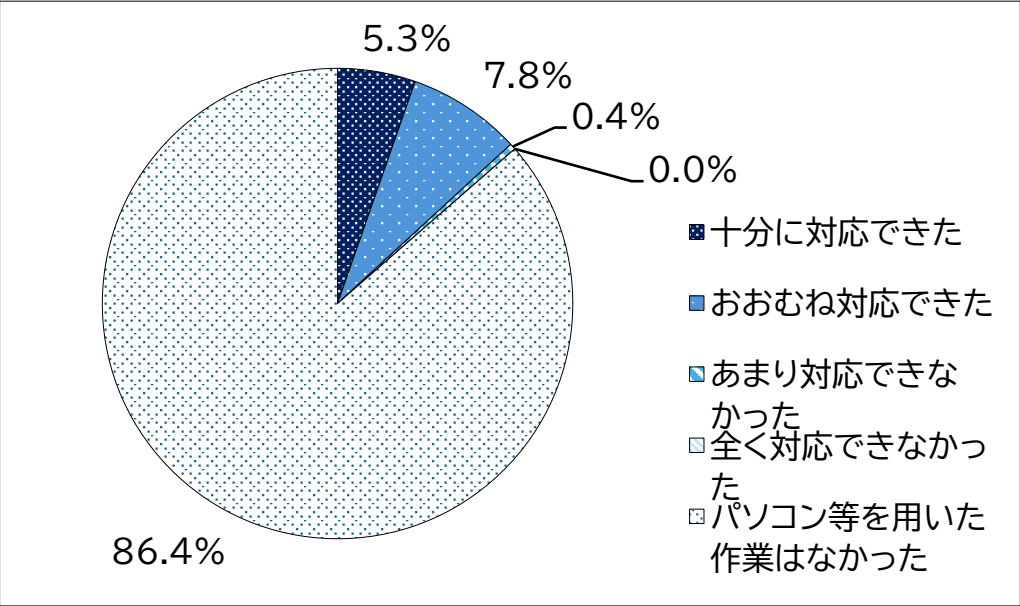
### Q 7 : 開票事務提要はよく理解できていましたか？



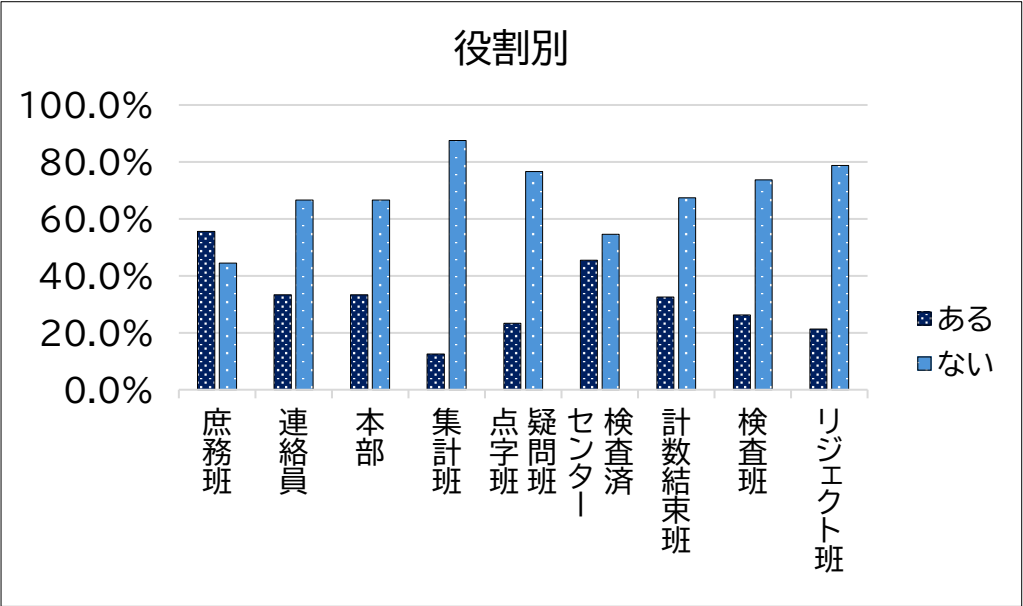
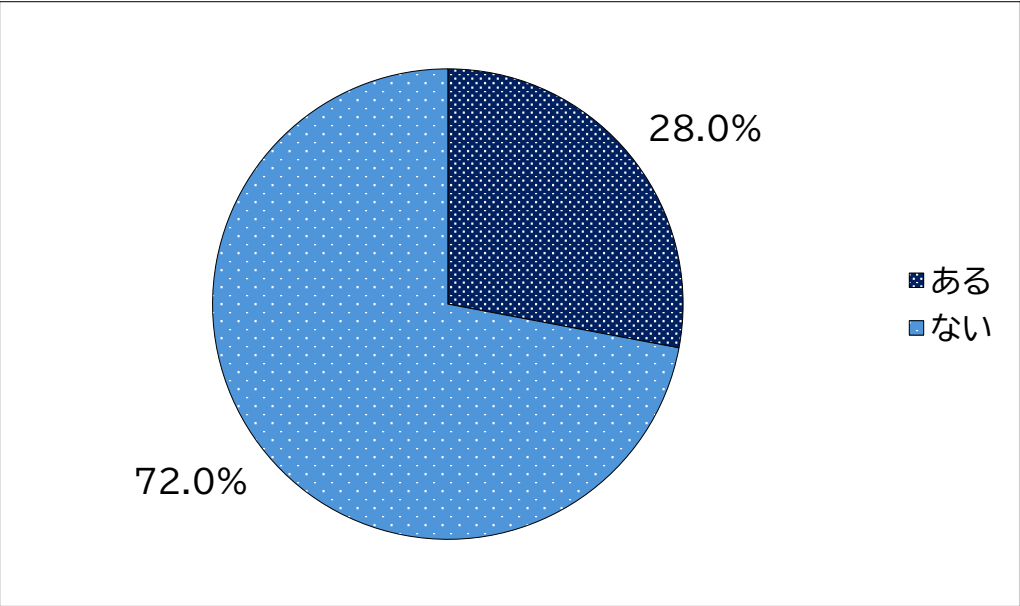
### Q 8 : 選挙管理委員会事務局から事務執行に必要な資料・情報は提供されていましたか？



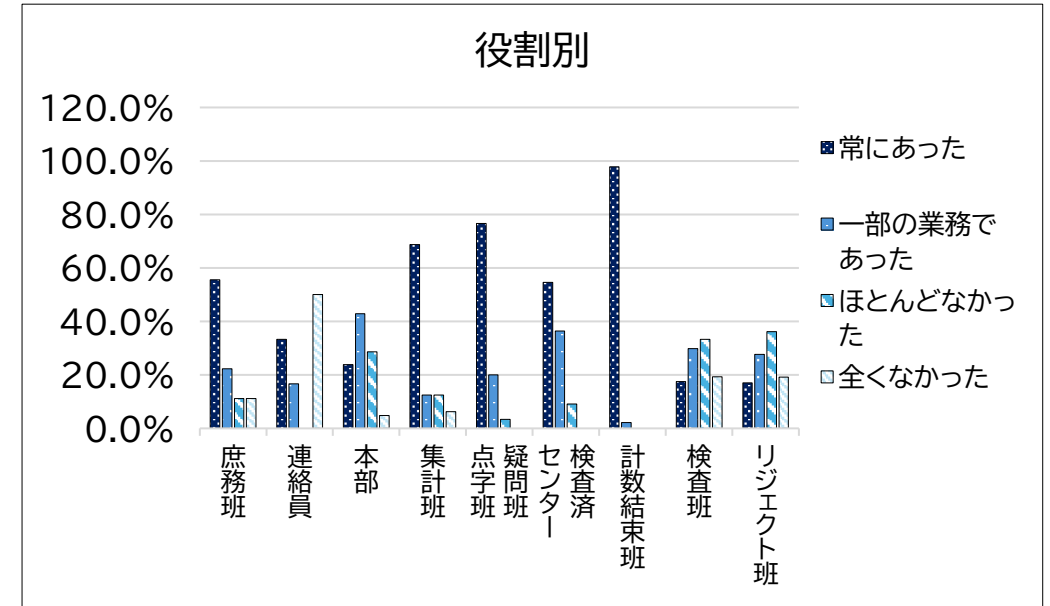
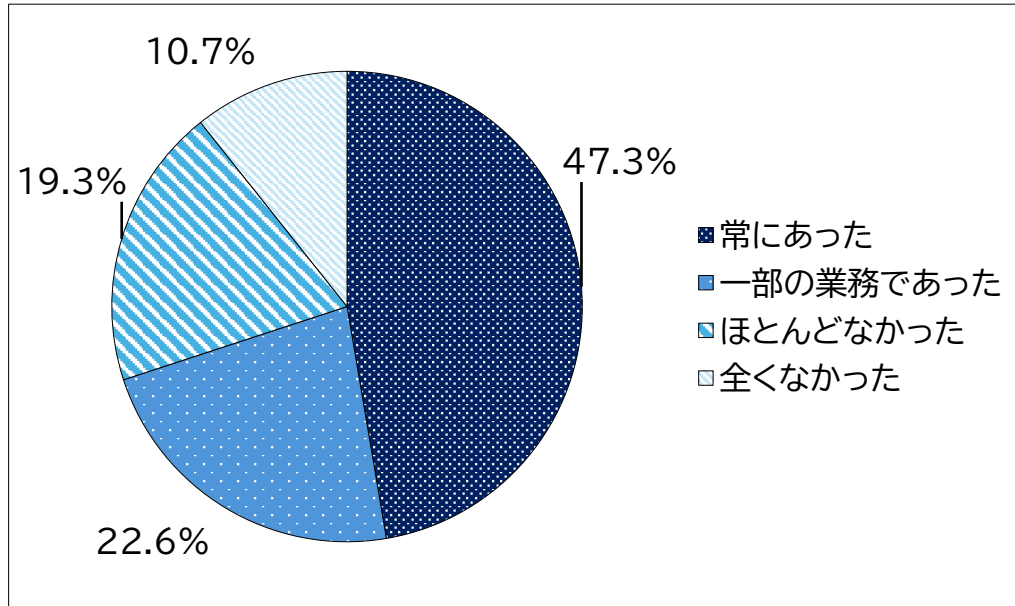
Q9：パソコンやスマートフォンを用いた作業（入力操作や集計等）に対応できましたか？



Q10：これまでデータ・リテラシーに関する研修（区のOA研修含む）を受講したことはありますか？



Q11：担当した業務は、複数人での確認（ダブルチェック）を行う仕組みがありましたか？



Q12：複数人での確認（ダブルチェック）が必要に感じた業務をご記入ください。（まとめ）

① 票の判定(有効／無効・疑問票)

読みにくい文字、誤記、按分票、疑問票に回すかどうかの判断など、必ず複数人で確認が必要。

② 分類機・検査工程での誤混入チェック

検査班・検査済センターでの再チェックが不可欠。

③ 計数(計数機・数字チェック)

検査班で検査済のものでも候補者名が混ざっていることがあるため、計数結束班でも一通りチェックが必要。

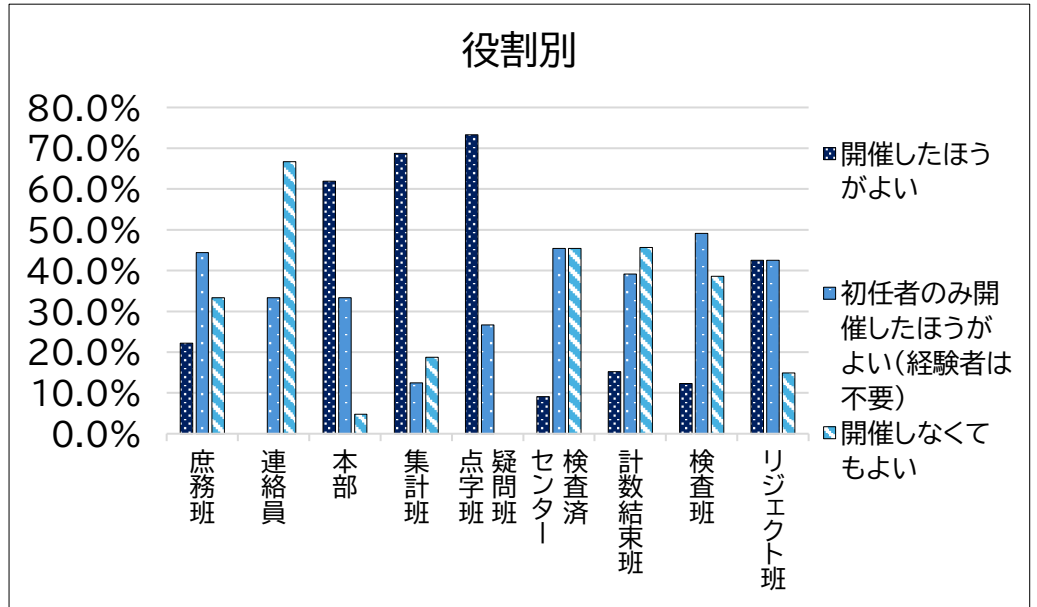
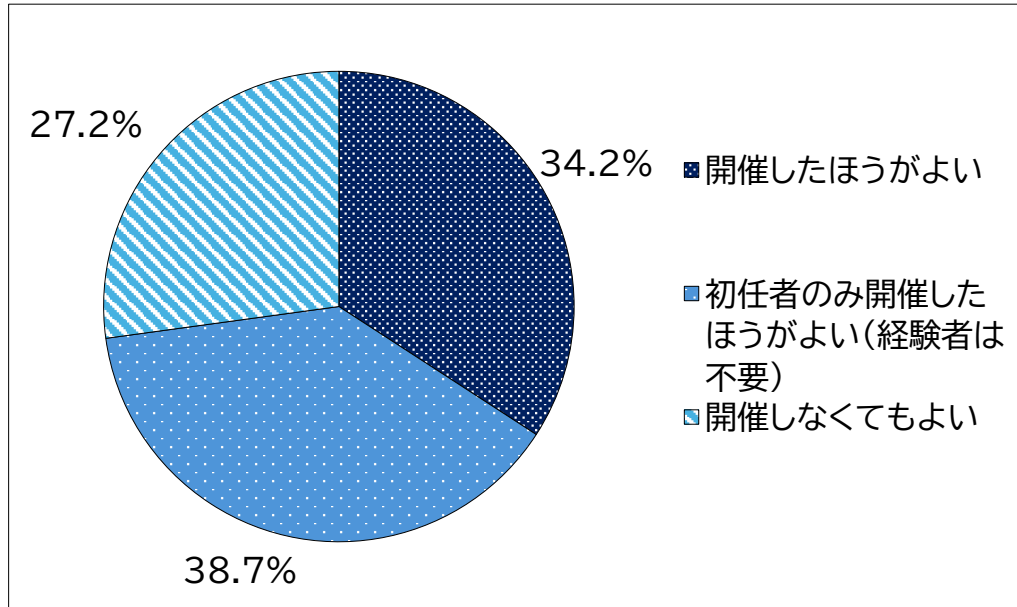
票束の枚数、計数機の結果確認、2 台での計数や照合など、機械＋人のダブルチェックが必須。

手入力の数字(速報・最終確定)も複数確認が必要。

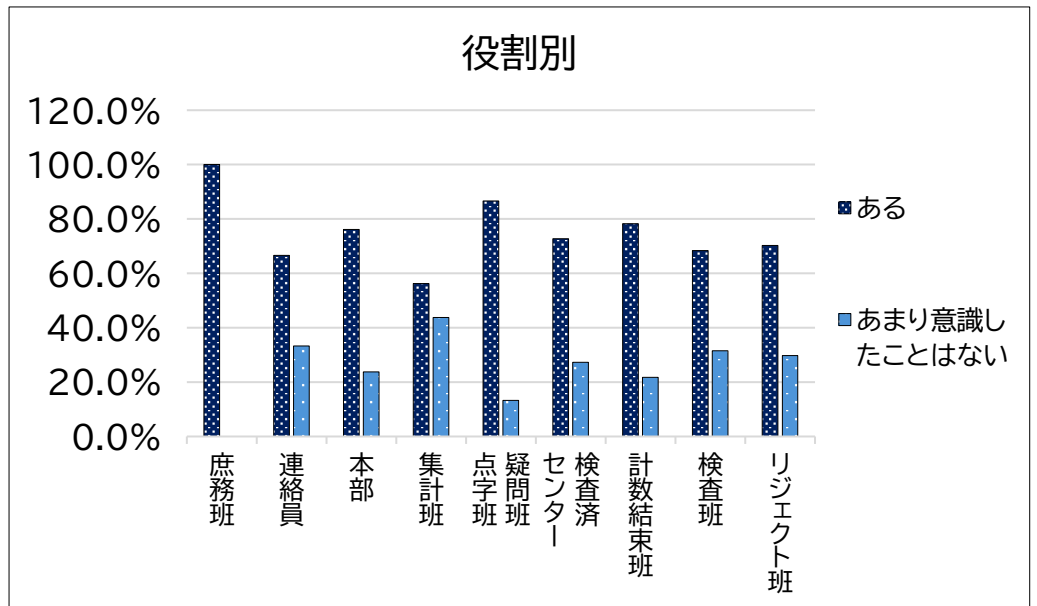
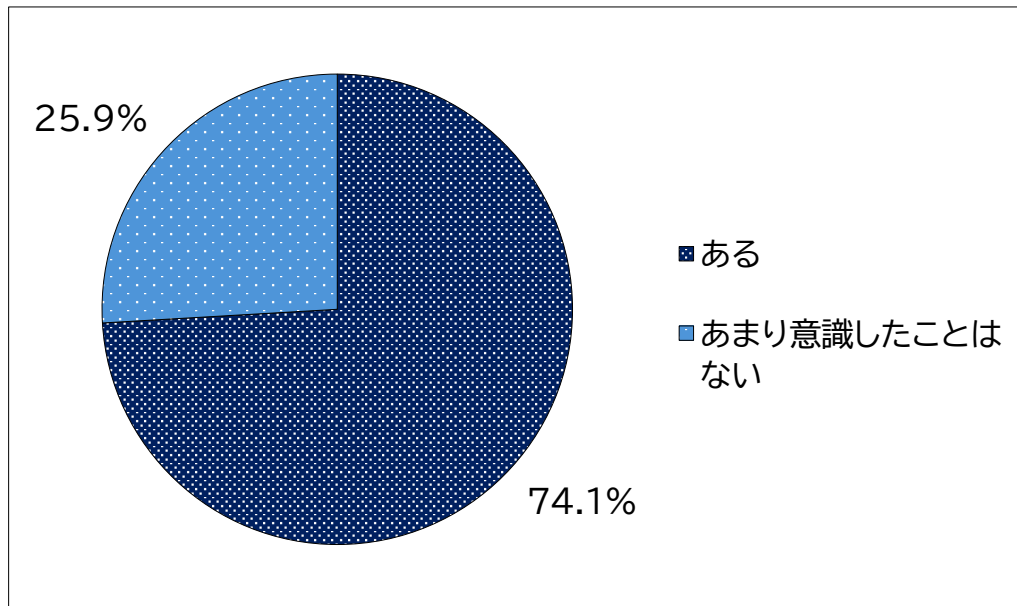
④ 開票所の物品・投票箱・設営関連

投票箱の置き場、開封済箱の数、票の運搬など、間違えると全体に影響する部分は複数人で確認。

Q13：担当した業務の説明会を開催したほうがよいと思いませんか？



Q14：開票事務は、投票箱に受け止めた有権者の貴重な一票を正確に集計し、その結果を選挙人に速やかに知らせる重要な事務ですが、これを正確かつ適正に執行するために区職員として意識している「考え」や「行動」はありますか。





Q15：意識している「考え」や「行動」をご記入ください。（抜粋）

① 正確性・慎重さの最優先

「時間がかかっても正確に」「速さより正確性」、1票も紛失しない／数え間違えないよう、机の下・箱の中の確認、自己ダブルチェックを徹底。

② 1票の重み・有権者の意思を尊重

「貴重な一票」「区民の思いが詰まった一票」として丁寧に扱う。

読みにくい票なども安易に無効にせず、複数人で慎重に判定。

③ 公正さ・不正疑念を招かない行動

私物（スマホ・カバン）を持ち込まない、手を机の上に出すなど、「見られても疑われない」立ち振る舞いを意識。

私語を控え、政治的な話題・態度を出さない。

④ 迷ったら一人で判断しない

班長・統括・選管職員・マニュアルに必ず立ち返る。「曖昧なまま進めない」「小さな疑問でも必ず相談」。

⑤ マニュアルの理解・事前準備

事務提要・マニュアルを事前に読み込む、説明会に必ず参加。班内ミーティングや声かけで、注意点・判断基準を共有。

⑥ 「見られている場」である意識

参観人・立会人・区民・報道の目を常に意識。「公務員としての自覚」「憲法上の参政権を支える仕事」という認識。

個々の作業の意味・役割、選挙全体の流れとその意義・根拠などを意識し、自身がその一部としてどう役割を果たすべきかを意識。

Q16：開票事務において、改善すべき点についてご記入ください。（抜粋）

① 説明・マニュアル不足

事前説明会の欠如、班長しかマニュアルがない、全体フローがわかりにくい。実例を踏まえた例示を随時更新してほしい。

各担当職員の理解度不足。説明が統一されておらず混乱の原因に。

② 待機時間・集合時間が長い

20時集合～開披までの“手持ち無沙汰”が多く、集合時刻の見直しや待機時間の有効活用が必要。

③ 人員配置

疑問班・本部・検査済センターなどの負荷集中、暇をもてあました態度の人も。継続して従事できる職員を希望。

④ 公正性・コンプライアンス対応

観覧席での録画などへの対応ルール・監視体制が不十分。

⑤ フロー・環境・働き方

票の戻し動線が非効率・混入リスクあり／開披台やレイアウトが作業しづらい／長時間・深夜従事に対する休憩・食事・帰宅手段への配慮が不足。

Q17：最後に、選挙事務に関連して特に伝えたいことがあればご記入ください。（抜粋）

①今回の不祥事へのショックと不信

真面目に従事してきたのに裏切られた感覚、今後は従事したくないという声。  
経緯をきちんと説明してほしい、という強い要望。

②体制・働き方の問題

選管・OB 頼みの「経験則運営」や、長時間労働・人手不足への懸念。報酬額の見直しや、外部委託の導入。  
負担の集中を見直し、組織として責任と役割を明確にすべきとの指摘。

③時間・方法の見直し

「早く終わらせなければ」というプレッシャーが不正の原因の一端と推察。  
投票時間の短縮や翌日開票の検討など、「スピードより正確性重視」に切り替えるべきという意見。

④研修・倫理・人材育成

班長向け説明会・オンライン研修などの充実。  
全庁的なコンプライアンス教育と、若手を含めた計画的な人材育成の必要性。単発ではなく、継続的・長期的に。

⑤それでも支えたいという声

選管の努力への感謝や、再発防止が図られるなら今後も協力したいという前向きな声も。